

平成29年度 第3回 学校協議会 【議事録】

平成30年1月29日

10:00～12:00

[場 所]: 茨木支援学校 校長室

[出席者]: 協議会委員(5名) 校長 准校長 事務長

事務局 (教頭(2名) 首席(4名)) 指導教諭(1名) 部主事(3名)

はじめに

学校長・准校長あいさつ

① 会長挨拶

忌憚のないご意見をお願いします。

② 報告及び協議 (※●は協議会委員からの意見、提言等 Qは質問 Aは学校の回答)

[協議会意見書箱について]

今回は意見書箱への投書はなし。

[学校教育自己診断について]

[首席より]

- ・保護者の回収率が低かったのが残念である。
今後、回収率を上げるよう、改善していく。
- ・本校の課題としていた「専門性の向上」「風通しの良い組織風土づくり」のアンケート項目については、共に肯定率は上がった。後者についてはまだ肯定率が低いので、今後も改善を進めていく。
- ・「個別の教育支援計画」の項目について、教員の支援計画についての理解をより深めていく必要がある。
- ・「災害」についての項目では、防災に関する学校の取組を保護者にも情報発信をして知ってもらうことが大事。
- ・「安全安心」の項目では、保護者の肯定率が低かった。ヒヤリハットの活用は増えているが、今後も引き続き取組を進めて改善を図っていく。
- ・今後の改善
「授業改善について」は、大学教授に来ていただくなど授業改善に向けた研修などを行い、専門性を高めていくと共に、個別の教育支援計画・指導計画を十分に活用できるよう、教員の理解を深めていく。
「防災意識について」は、アドバイザーによる研修の再確認や防災の観点を持った校内安全点検を行うなど防災意識をより高めていく取組を進めていく。
「安全安心な学校づくり」については、研修等でヒヤリハットについての理解をより深めるなどの取組を通し、インシデントや事故が起きないようにしていく。

[学校長]

- ・職員会議を通して全職員に周知し、できる改善策をすぐに実施し進めていく。

[指導教諭]

- ・支援計画と教育支援計画の違いも認識しながら意識改善を進めていきたい。

- アンケートの分析や対応策が、具体的に示され考えられている。
- 学校教育自己診断アンケートの分析結果の資料は、報告書としては非常に良く考えられ、報告書としてまとまっている。しかし、あまりに細かく分析すると、教員にゆとりがなくなり、対応策などが定着しにくくなることもある。一定の枠組みをはめ過ぎないように、次年度新しく赴任する教員の意見なども取り入れながら、対応策を進めていってほしい。

[授業アンケートについて]

[教頭より]

- ・回収率は昨年度と比較して示されているが、第2回目の時期（12月）は、前後の行事など他に保護者が来校される機会が多いことなどで、回収率が下がってしまう。
 - ・評価が特段低いものはないが、やや低い授業については管理職より改善を進めている。
 - ・今後の改善点として、温度差による衣服の調整や屋外での活動など、子どもたちの体温調整についていねいに指導をしていく必要があること、教員間での児童生徒情報の共有をより密にしていくこと、の2点が挙げられる。
- 保護者が学校の授業に期待、要望することは、子どもたち自身の課題によって違う。それぞれの子どもの課題によって保護者が求める観点も違ってくるが、懇談等で教員に伝わっていると思うので、対応していただいていると思う。
 - 普段から保護者が教員とコミュニケーションが十分に取れていたら、保護者がアンケートを書く必要性が低くなる場合もあるが、回収率は下がらないように工夫してほしい。
 - PTAからも保護者に向けてアナウンスするなど、アンケートの提出数が増えるように働きかけたい。
 - 前回のアンケートの意見と比較すると、大きく改善が見られる。
 - 寒い中での屋外での活動について、寒さ対策も必要だが、保護者の方が授業のねらいをより理解できるよう発信していくことも必要ではないか。
 - 寒暖差の対応についての意見が多いが、施設面から仕方がない部分もあると思う。授業内容については、その授業が何に重きを置いて指導しているのかが大事。

[教頭]

- ・学校から依頼するアンケートの種類が多いことも回収率が低い要因と考える。アンケートの時期を一覧にし、丁寧に説明して保護者に理解していただけるよう努力する。

[平成29年度 平成30年度 学校経営計画について]

[学校長より] (別紙 学校経営計画)

- ・課題として3点
 - ①支援計画の活用について ②授業改善について ③教員の防災意識について
- ・来年度に向けて
 - *子どもファーストの徹底
 - *チーム学校の意識化
 - *人材育成（メンター・メンティの関係づくりの強化）
 - *センター校機能の充実（地域とのかかわり）
- ・地域とのかかわりについては、昨年、文部科学省から全国表彰を受けた。こういった地域とのつながりもセンター校としての機能の一つである。
- ・医ケア（高度医療）についての本校での取組を全国で実践発表した。高度医療の国事業による校内体制の整備を進めている。

- ・全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会（全肢P）にて本校の取組を発表した。本校で実施している福祉機器展や支援機器の活動実践の発表を行った。近畿・全国での発表を受けて、本校の福祉機器展に他府県からの見学者もあった。また他府県でも福祉機器展を実施する学校があった。
- ・学校協議会は平成30年度より学校運営協議会となり、学校や校長に対する意見や審議を行うことができるようになる。

【准校長】（高等部の活動について）

- ・喫茶の取組やこさえたんマルシェの参加など就労に向けた取組の充実を図った。
- ・バスケット・サッカー・卓球・陸上などスポーツ大会への参加を積極的に行った。
- ・英語科を中心として、国際交流教育を進めた。スカイプを利用しての海外とのやりとりや近隣大学の留学生との交流などを行った。
- ・就労については、今年度8名希望があり、全員が就労できる見通しである。
- ・進路指導部を中心にアフターフォローについても進めている。
- ・国事業による学校体制の整備を進め、医ケア児童生徒の教育の充実を進めていく。
- ・ボッチャ甲子園に参加。来年度は茨木市開催のボッチャ大会にも参加を検討している。

【学校長】

- ・地域に根ざした学校として、地域の方々にサポートいただき、全国表彰を受けた。
- ・今後も地域の皆様には、引き続き交流など様々な活動を支援していただきたい。

- 学校経営計画にも、生きぬく力を養うなど、すばらしい目標が示されている。今後も子どもたちのために学校と協力し、サポートしていきたい。
- 本校はまもなく50周年を迎える。40年以上、地域に支えられてきた学校である。地域の方々には今後とも学校へのご協力をお願いしたい。
- 子どもたちは、学校に在籍している間は生き生きと活動しているが、卒業した後の生活には不安を持っている子どもや保護者はいる。学校は、子どもたち皆が夢や希望を持って卒業していくことができるよう送り出したいという気持ちであると思う。学校は学校内の教育だけでなく、地域との交流や進路指導など様々なことに幅広く活動している。学校として前へ前へ、外へ外へと出て行く姿勢を続けてほしい。

【学校長】

- ・施設設備に関して、防火扉・非常ベルの改修を行った。
- ・体育館の大きな時計やトイレなど必要箇所の修繕を進めていきたい。

【事務長】

- ・雨漏り等、修繕が必要な箇所はまだ存在するので、安全安心に向けて進めていきたい。
- ・来年度入学予定者に対応するための施設設備の充実も進めている。

【首席】

- ・平成31年度に創立50周年を迎える。
- ・現在、実行委員会を立ち上げ、式典や記念品等の準備を進めている。

- 建物の老朽化については、対府懇談会にてPTAからも要望を出している。学校の老朽化に対する修繕の要望はどの学校でも出ている課題である。保護者としても声を上げて要望していくので学校もよろしくお願ひしたい。

③ 諸連絡

平成30年度より「学校運営協議会」へ移行。詳細・依頼については後日連絡いたします。また、生徒指導に係る校則につきましても生徒指導マニュアルの見直しを検討しています。